

平成 28 年度以降の世界緑茶協会主要事業実績

(公益財団法人世界緑茶協会)

1 概要

公益財団法人世界緑茶協会は、「茶の都しずおか」の情報発信として「茶の都しずおか創造セミナー」の開催をはじめ、しずおか 0-CHA プラザにおいて開催した各種講座により静岡が誇る茶の文化を発信した。また、海外への日本茶輸出促進に向けた取組として、日本茶輸出促進協議会事業を実施し、世界緑茶会議の開催や国際会議への出席を通じて世界の茶の情報の収集と発信に努めた。

2 平成 28 年度の主な事業実績

件名	内容
茶の都しずおか創造セミナー開催	海外から見た和食・緑茶の魅力発信をテーマに外国人が語るセミナーを静岡産業大学 0-CHA 学術研究センターと共同で開催
しずおか 0-CHA プラザ開催講座	年間を通して季節に合わせた様々なテーマで、お茶の多様性や新しい楽しみ方など、お茶の魅力を発信する講座を開催
アメリカにおける見本市出展	世界最大の茶の見本市「World Tea Expo 2016」へ出展し、日本茶の魅力や価値について幅広く情報を発信
通訳案内士お茶研修会の開催	英語の通訳案内士、地域限定通訳案内士を対象としたお茶の研修会を県観光政策課と協力して3つのテーマに分けて開催
国際連合食料農業機構の会議出席	ケニア・ナイバシャで5月に開催された茶に関する国際会議へ日本茶業界の代表の一員として出席し、日本の意見調整を図った。
日本茶教育用データベースの作成	海外の日本茶教育者への正しい情報を提供するため、静止画像を使った英語解説データベースを整備し、ウェブサイトで公開した。
世界緑茶会議の開催	世界の茶事情の報告や世界の緑茶市場拡大への戦略をテーマに幅広く討論し、更なる緑茶市場拡大の方法を探った。
世界緑茶コンテスト 2016 の開催	日本、中国、韓国、台湾ほか計 10 カ国から 88 点の出品があり、最高金賞 10 点、金賞 20 点、パッケージ大賞 1 点等の入賞茶を選定
平成 28 年度 0-CHA パイオニア顕彰	茶機能性の臨床的研究を実施する静岡県立大学の山田教授、お茶ツアーを商品化する㈱ソフト研究室ら計 5 者を受賞者に決定

3 平成 29 年度の主な事業実績

件名	内容
静岡県・浙江省茶文化交流座談会開催	中国浙江省の茶文化研究者と県内の大学研究者等との間で、茶文化と産業のかかわりをテーマに意見交換会を開催した。

平成 29 年 6 月 12 日

茶の都しずおか創造セミナー in 世界お茶まつり 2016

「海外から見た和食・緑茶の魅力発信」

(公益財団法人世界緑茶協会)

1 要 旨

公益財団法人世界緑茶協会は静岡産業大学 O-CHA 学研究センターと連携して、日本在住の外国人専門家を招へいし、和食と茶の海外発信についてそれぞれの視点で語っていただき、「茶の都しずおか」から茶の文化的価値を発信した。

2 概 要

(1) 日 時 平成 28 年 5 月 14 日 (土) 午後 1 時～4 時

(2) 場 所 龍門山 石雲院 (静岡県牧之原市坂口 1251)

(3) 講演者等

- ・マルチノ・ロベル・ジル 氏 (食と旅のフリージャーナリスト)
- ・ブレケル・オスカル 氏 (日本茶の伝道師)
- ・ケント・ローズ 氏 (静岡県立大学非常勤講師)
- ・コーディネーター 静岡産業大学情報学部長 堀川教授

(4) 参加者数 95 名

3 セミナーの様子



4 参加者の意見

- ビジネス面でプラスになった。
- 日本一丸となって世界に向けて発信していかなければならないと感じた。
- 茶の将来性を感じ取れた。
- 色々な観点から日本茶の振興についての提言を受けて参考になった。
- 静岡県には、日本や世界に誇れる“食”がたくさんあるということに気づいた。海外へ日本茶を広めていくには努力が必要であるが、可能性は大いにあるということ。
- 輸出の現実面を知ることができた。

平成 28 年度しずおか O-CHA プラザミニ講座

(公益財団法人世界緑茶協会)

1 概要

しずおか O-CHA プラザでは、県内外の一般の方を対象に年間を通じ季節に合わせたさまざまなテーマで、お茶に関するミニ講座を開催している。お茶の多様性や新しい楽しみ方などお茶の魅力を発信・紹介する講座として、定員を上回る申込みで大変好評を得ている。

この講座ではテーマにより茶業研究者や茶生産者などを特別ゲストとして招き、消費者（受講生）と繋げる貴重な機会を提供するなど、淹れ方体験だけでなく同時に茶に関する知識を身につけ、それを普段の生活に生かしていただくことで茶の消費に繋がるような提案をしている。

2 講座テーマと受講生数

	テーマ	開催時期	参加者数
1	新茶を愉しむ	5月19日 ～ 6月7日	155
2	暑い季節にピッタリ☆冷茶の魅力新発	7月6日 ～ 7月15日	147
3	夏休み親子で楽しむお茶講座	8月1日 ～ 8月10日	82
4	お茶の多様性を知る	9月15日 ～ 9月30日	118
5	普段使いで楽しもう！抹茶・粉末茶	11月17日 ～ 12月1日	154
6	入賞茶を味わう	1月13日 ～ 2月3日	132
7	みんなで楽しむ Tea Style～お茶とお菓子の組合せ～	2月21日 ～ 3月6日	142
計			930



新茶の講座 茶殻までいただく



富士山グラスに丸い氷を浮かべて



夏休み親子講座



お菓子と茶のペアリング



静岡本山抹茶研究会を招いて



入賞茶を味わう

「World Tea Expo 2016」 出展報告

(公益財団法人世界緑茶協会)

1 概要

- (1) 会 期 平成28年6月15日(水)～17日(金)
- (2) 会 場 米国、ネバダ州、ラスベガス
- (3) 内 容 日本茶の最大の輸出先である米国で開催される世界最大の茶や茶関連商品に特化した見本市。245社以上が出展。

2 出展内容(静岡県ブースの出展支援(3ブース)、1ブースを世界緑茶協会で使用)

- (1) ブースの種類 デラックスブース (9 m²) を4ブース設置、計36m²
- (2) ブースの構成 静岡県の3ブースの内訳: san grams
カネイー言製茶(株)
(株)流通サービス

3 出展の成果

- 日本茶の最大の輸出先である米国において、日本茶のPR並びに世界お茶まつりのPRを精力的に実施、米国の日本茶ブロッガーへの対応なども行い協会の海外でのネットワークの拡大や情報収集に役立った。
- 米国の茶業者と幅広く接することで、米国での茶の流通事情や日本の関連企業の出展状況を適切に把握することができた。

4 担当所見

- ワールドティーエキスポはBtoBのイベントであるため、試飲のみを目的とした来場者はほとんどなく、ブース訪問者とじっくりと情報交換する環境がある。
- 米国では抹茶がブームとなっているため、多くの出展者が抹茶をPRしており、競合を避けるための工夫も見られた。
- 世界の茶生産国、消費国からの出展をはじめ、茶の本の執筆者や専門家も多い。消費国の団体から日本茶研修ツアーを検討しているため、協力してほしいとの要望もあった。

5 出展の様子



日本茶マーケティングセミナー2017 「パッケージの威力」 ～消費者が手に取るパッケージを目指して～

(公益財団法人世界緑茶協会)

(要旨)

茶商品の魅力や価値を消費者へパッケージを通じて伝えるため、公益財団法人世界緑茶協会は、デザインや6次産業化支援を通じて全国の地域活性化事業で活躍中の「まち・文化研究所」代表、森田みか氏を講師としてセミナーを開催し、商品開発力向上の支援を行った。

1 事業の概要

日 時	平成 29 年 3 月 10 日 (金) 13:30～15:30
場 所	水の森ビル 2 F 共用会議室 (静岡市駿河区南町 14-1)
対 象	茶業関係者
内 容	・世界緑茶コンテスト出品茶の傾向 ・パッケージデザイン～魅せる工夫と見せる工夫
講 師 他	「まち・文化研究所」代表 森田みか 氏 コンテストについては、協会佐藤主任より説明
参加者数	27 名

2 森田講師による講演の主な内容

- ・商品にするということ (中身が大切、何処で売るか、誰に何のために買ってもらうか)、パッケージは服装と同じ、中身を伝える手段
- ・ブランドの作り方 (岩手県軽米町の雑穀をシリアルにして世界ブランドへ)
- ・価値を高める3つの方法 (資材や材料にお金を掛ける、手間を掛ける、広報にお金をかける。) 求められるのは「物語り」

3 開催の様子



協会職員からコンテストの
状況を説明



森田みか講師



世界緑茶コンテスト 2016 入賞茶
を会場内に展示

4 受講生の声

- ・理解度アップの具体的な事例、なるほどいっぱいのお話、ありがとうございました。

「通訳案内士・地域限定通訳案内士お茶研修会」の開催

(公益財団法人世界緑茶協会)

1 概要

世界緑茶協会は、英語の通訳案内士、地域限定通訳案内士を対象としたお茶の研修会を静岡県文化・観光部観光交流局観光政策課と協力のうえ、3回のテーマに分けて下記のとおり開催した。

2 日程及び内容

	テーマ	場所	日程	内容
1	美味しい茶の淹れ方 抹茶/茶道の基本	O-CHA プラザ (吉野先生)	7月24日(日) 13:00-17:00	実演を交え、美味しい茶の淹れ方と茶道の基本や歴史を説明(4時間)
2	茶の栽培・製造方法 と工程、品種*	森内茶農園	8月27日(土) 13:30-16:30	茶園及び荒茶加工施設の見学、園主の概要説明(3時間)
3	茶の種類と仕上げ・ ブレンド*	前田金三郎商店	9月10日(土) 8:30-11:30	店舗及び仕上茶加工施設の見学、店主の概要説明(3時間)

3 講座の様子



第1回研修会の様子
(O-CHAプラザにて)



第2回研修会の様子
(森内茶農園にて)



第3回研修会の様子
(前田金三郎商店、仕上工場にて)

4 受講者の声

- 日常的にお茶をいただいておりますが、目からウロコのお話ばかりでした。「革命的」と言っても過言ではないほどの開眼でした。静岡とお茶の歴史についても大変興味深く勉強できました。
- なかなかお茶の工場を見る機会がなく、貴重な体験となりました。
- たくさんお茶のことについて学べ、興味深い内容でした。新たな発見もたくさんあり、自分でも更に調べてみたいと思いました。
- 仕上げのプロセスの精密さに驚いた。お茶の全容がわかる講座でとても建設的でした。

平成 29 年 6 月 12 日

茶の国際連合食糧農業機関政府間グループ(FAO/IGG on Tea)会議

(公益財団法人世界緑茶協会)

1 要旨

前回(2014 年)インドネシアのバンドンで開催された本会議以降の情勢の変化などを反映し、2015 年にイタリアミラノで開催された中間会議の結果踏まえて、各作業部会の対応方針を消費国、生産国間の政府間レベルで検討した。

2 概要

- (1) 日 時 平成 28 年 5 月 25 日(木)～27 日(金)
- (2) 場 所 ケニア ナイバシャ エナシパイ Entumo 会議場
- (3) 出席国 ブルンジ、カナダ、中国、ドイツ、インド、インドネシア、ケニア、マラウイ、モロッコ、スリランカ、英国、FAO スタッフ他、94 名。日本からは農林水産省生産局地域作物課井上課長補佐、農研機構本部白井研究管理役、果樹茶業研究部門の角川茶業連携調査役、吉田上級研究員、世界緑茶協会の西川企画部長が出席した。
- (4) 内 容 茶の残留農薬基準、流通と品質、有機栽培、気候変動、小規模茶農家対策、統計解析についてそれぞれの部会で議論されるとともに、中国から世界の茶のマーケティング分析の部会の新設が提案された。
- (5) 検討結果の要旨
 - ア 残留農薬基準部会
 - ・ 抽出した茶の残留農薬基準設定の進捗状況の確認
 - ・ EU と Codex の残留農薬基準の隔たりについて指摘
 - ・ 農薬メーカーとの共同作業の必要性を確認
 - ・ Codex への登録申請を随時行うことができる国際組織の必要性を提案
 - ・ 薬剤耐性病害虫発生情報共有の重要性を確認
 - イ 流通と品質
 - ・ 各生産国における ISO 基準の国内標準への導入状況及び遵守状況を確認

3 検討の様子



平成 28 年度「和食」と地域食文化継承推進事業 茶育講座 お茶を淹れてお茶でクッキング～お茶のことを楽しく学んじゃおう！

(公益財団法人世界緑茶協会)

(要旨)

公益財団法人世界緑茶協会は、茶を楽しみ、その文化、歴史に触れ、茶の魅力を実感できる「茶の都しずおか」づくりの一翼を担い、世界の茶文化の紹介やお茶を楽しむ新しいスタイルを提案している。今回は、小学生とその親を対象とした茶育講座を開催して、静岡県の食・喫茶文化の適切な継承の一助とした。

1 事業の概要

日 時	平成 28 年 9 月 25 日 (日) 13:00～15:30 (90 分)
場 所	静岡県男女共同参画センター「あざれあ」3階 生活関連実習室
対 象	小学校 4～5 年生とその親
内 容	正しいお茶の淹れ方、お茶を用いた料理、お茶の効用について
講 師	日本茶インストラクター、管理栄養士 松島章恵 先生
参加者数	9 組 20 名の親子

2 講座の成果

- ・食育の重要性、普段の食生活で気を付けたいことについて、正しい知識を周知することができた。
- ・参加者はユネスコ無形文化遺産の「和食」の基本となる味、「うま味」について学習するとともに、人の味覚について体験を交えて理解を深めた。
- ・しずおかの特産品である緑茶を用いた食べ物を親子で楽しく調理し、正しい入れ方を指導することで、静岡の食文化の継承につなげた。

3 講座の様子



4 受講生の感想

- ・普段何気なく食べている食事に対して子供が意識を持ってくれるようになる良いきっかけになった。子供には緑茶は渋いというイメージがあったが、これをきっかけに甘味や旨味を感じて飲めるようになるのではないかと。(親)
- ・茶がらが一番おいしかった。(小学生)
- ・お茶の淹れ方を学んだので家でももう一度淹れたいです。(小学生)

海外での日本茶教育用データベースの作成

(公益財団法人世界緑茶協会)

1 概要

海外で日本茶の需要を拡大するためには、日本茶を教育・啓蒙する海外の指導者や団体に正確な情報を提供する必要がある。そこで、海外の日本茶教育者向けに、日本茶に関する各分野の画像データを体系的に分類して画像毎に英語解説を付けた、英語版静止画データベースを整備し、ウェブサイトで公開した。

2 データベースの内容

名 称	Japanese Tea Education Database (日本茶教育用データベース)
項 目 数	日本茶の栽培、製造機械、茶園管理機械、茶産地、茶の種類、品種、茶の審査、茶樹の生態、歴史文化、流通取引、茶を使った製品、日本茶のある生活、料理・お菓子、呈茶法、茶道・茶の湯、蘭字、茶の成分・機能性 計 17 大項目
構 成	静止画像 981 枚 英語による解説
ウェブサイト アドレス	http://www.nihon-cha.or.jp/export/nihoncha_db/

3 活用方策

- 全米茶協会、カナダ茶・ハーブ協会等、各国の代表組織にデータベース作成を通知した。今後、各組織傘下の日本茶普及・教育機関での活用が期待される。
- 世界緑茶協会、日本茶業中央会、日本茶輸出組合のホームページにリンクを設定し、英語による日本茶の啓発に活用が期待される。



サムネイルページ



茶品種解説ページ



製茶機械解説ページ

「世界緑茶会議 2016—世界の緑茶市場拡大への戦略—」の開催

(公益財団法人世界緑茶協会)

1 概 要

- (1) 主 催 日本茶輸出促進協議会、第 6 回世界お茶まつり実行委員会、(公財)世界緑茶協会
- (2) 実施日 平成 28 年 10 月 27 日 (木) ~28 日 (金)
- (3) 場 所 グランシップ 11 階 会議ホール「風」
- (4) 内 容 世界各地から一流の茶専門家を招き「世界の茶事情について」の報告や、「世界の緑茶市場拡大への戦略」をメインテーマにブランディング、教育、マーケティング、プロモーションやツーリズムなどについて幅広く討論し、更なる緑茶市場拡大の方法を探った。
- (5) 参加人数 195 名

2 会議出席者（議長以下はプレゼンテーション順）

<p>■議長：堀川知廣 氏（静岡産業大学 情報学部長）</p> <p>お茶の産業に関わる方々は、生産にしても流通にしても見通しを持って将来に向かって体制を整えていかなければいけない。会議の中身だけでなく、世界のリーダーの皆様とつながりをつくっていただければありがたい。</p>	
<p>■ピーター F. ゴッジ 氏（全米茶協会 会長）</p> <p>世界のニーズやトレンドは今後も大きく変化していく。需要の変化をどう掴み取っていくかが大切。加工技術をはじめ、さまざまな手法で今後もぜひ皆さんのお茶を米国市場へアピールしていただきたい。</p>	
<p>■松本靖治 氏（京都おぶぶ茶苑 副代表）</p> <p>「日本茶を世界へ」と、初めは自分たちが世界へ出ていくことばかりだったが、世界の方々が茶畑にやってくる状態になってきている。この循環が大事で、ずっと回し続けることで、日本茶文化は世界に広がる。茶業の経営モデルを作りたい。</p>	
<p>■ルイーザ ロベルジュ 氏（*カナダ茶協会 会長）</p> <p>お茶を一つの切り口として美しいストーリーを聞けないかと考え、持続性に関する賞を北米で創設した。お茶がどこで、どのように生産されているのか、特にミレニアル世代は関心が高い。茶生産の裏側の秘話を彼らは知りたがっている。</p>	
<p>■カイソン チャン 氏（FAO-IGG on Tea、国連機関 元事務局長）</p> <p>グローバルな茶経済の成長要因を分析した結果、価格は重要だが主要素ではないことが分かった。人口動態や心理的要因が経済要素よりも大きな影響を与えている。つまり、年齢、教育、職業、その人の持つ文化的背景で茶の消費は変わる。</p>	
<p>■劉 仲華 氏（中国茶業商学院 院長、湖南農業大学 教授）</p> <p>中国の茶産業は 2000 年以降急伸長し、特に過去 10 年間は毎年 1 万 ha ずつ伸び、世界有数の茶生産地を形成している。まだ 6.2%と少数派だが、新しいコンセプトの有機茶園に変える農園が増え、日本や欧州、米国などの認証を得ている。</p>	

* 現在は Tea Association of Canada から Tea and Herbal Association of Canada に名称変更。



プレゼンテーション



パネルディスカッション

世界緑茶コンテスト 2016 開催報告

(公益財団法人世界緑茶協会)

1 概要

斬新でお茶の未来を感じさせる商品进行评估し、提案していくため、「世界緑茶コンテスト 2016」を開催した。国内外から 88 点（日本 47 点、海外 41 点）の応募があり、茶の商品性や品質の視点審査し、各賞を決定した。

2 審査会

- (1) 実施日 平成 28 年 8 月 18 日（木）、19 日（金）
 (2) 会場 島田市金谷生きがいセンター 夢づくり会館
 (3) 内容 農研機構果樹茶業研究部門 吉田茶業研究監を審査員長に、茶商工業者、試験研究、デザインの専門家など 8 人
 (4) 審査方法 商品形態（出品茶のコンセプト及び名称、パッケージデザイン、コストパフォーマンス）と内質審査（香気、滋味）で絶対評価による総合的な審査を行った。

3 各国の出品数及び入賞結果

	点数	日本		海外	海外								
		日本	静岡県		中国	韓国	台湾	トルコ	スリランカ	インド	オーストラリア	タンザニア	ベトナム
出品数	88	47	36	41	16	11	3	2	3	2	1	1	2
最高金賞	10	2	2	8	6	0	2	0	0	0	0	0	0
金賞	20	10	9	10	4	1	0	2	2	1	0	0	0
P賞	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
F賞	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
奨励賞	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入賞数計	33	15	14	18	10	1	2	2	2	1	0	0	0

P賞:パッケージ大賞、F賞:フロンティア賞

4 審査講評

商品力の向上が見られ、ターゲットやメッセージが明確になり、パッケージのデザインも向上している。初めて出品する国が増加し、多彩な商品が揃った。簡便に飲めるお茶の品質が向上している。需要の変化に対応した優れた商品の開発が更に期待される。

5 展示と表彰式

- (1) 実施日 展示：平成 28 年 10 月 27 日（木）～30 日（日）／ 表彰式：10 月 30 日（日）
 (2) 場所 展示：グランシップ 1 階 中ホールエントランス／表彰式：特設ステージ
 (3) 内容 お茶まつり 2016 秋の祭典において入賞茶の展示およびオークションを実施。会場には国内に限らず、海外の茶関係者も多く訪れ、需要の変化に対応した優れた商品の開発へのヒントを提案した。
 オークション（入札方式）は貴重なお茶が手に入る機会として好評を得て、対象となった全ての茶が落札された。表彰式は国内外から出席した 21 名の入賞者に（公財）世界緑茶協会川勝平太会長（静岡県知事）からオリジナルの表彰楯を授与した。



審査会



展示



表彰式

第 11 回国際名茶品評会 入賞茶決定

(公益財団法人世界緑茶協会)

1 概要

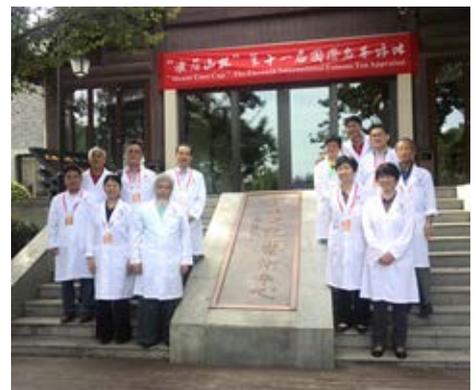
「国際名茶品評会」は茶の品質を競う国際的な品評会で、中国杭州市に事務局のある世界茶連合会が主催でほぼ 2 年に 1 回開催されている。世界緑茶協会は日本茶の品質の高さを世界に広く発信するため、この品評会の協力団体として 2008 年以降日本の審査員の推薦や出品茶の取りまとめなど、日本の窓口として対応している。

2 審査会開催概要

- (1) 日 時 平成 28 年 6 月 29 日 (水) ～30 日 (木)
- (2) 場 所 中国杭州市 民生文化芸術センター
- (3) 審査点数 445 点 (杭州審査会)、125 点 (峨眉山審査会) 合計 570 点
- (4) 参加国 中国、台湾、日本、韓国、インド、スリランカ
- (5) 日本からの出品茶の入賞結果
世界名茶大賞 1 点 (川根本町 相藤農園 相藤直紀) / 特別金賞 4 点 / 金賞 14 点 / 銀賞 7 点

3 審査員 (杭州審査会)

龚淑英	浙江大学教授
鄭仁梧	韓国茶道大学院教授 / 韓国国際茶葉研究所所長 (韓国)
夏涛	安徽農業大学副校長
中村順行	静岡県立大学特任教授 (日本)
王亜雷	日本中国茶協会会長
周紅傑	雲南農業大学教授
沈紅	元国家茶葉品質監督試験センター教授高級工程師
李明璋	高級評茶師 / 兩岸茶王コンテスト専門審査委員
陈鬱榕	全国茶葉標準化技術委員会技術委員



- 今回初めて日本から抹茶の出品が 3 点あり、中国から出品された 1 点 (杭州市産) と併せて、日本から提案した抹茶の審査方法で審査が行われた。品質の高い日本の抹茶に、中国や台湾の審査員らも大変興味深い様子であった。
- 今後も多様なお茶の出品が増える傾向にあり、主催事務局もそれを見据えて、それぞれの茶種の審査基準をより精査していくとのこと。
- 世界緑茶協会としても、日本の代表窓口として世界に日本の素晴らしいお茶を紹介することを目的に、国際的な品評会に今後も関わっていく。



平成 29 年 6 月 12 日

北米茶会議の金賞茶品評会出品支援 JA 静岡経済連の「揉一ひとえ」が最高金賞を受賞

(公益財団法人世界緑茶協会)

1 要旨

- ・北米茶会議では、世界の各産地（国）のお茶を集めた品評会を行っており、今年 9 月に第 5 回金賞茶品評会の審査を行った。
- ・世界緑茶協会は 2015 年から国内の茶業関係者に情報共有して幅広く出品を呼びかけており、会員団体である J A 静岡経済連へは 2015 年の視察結果を踏まえてコンサルティングした。
- ・今回の品評会には、日本を含む 10 カ国から 72 点の茶が出品され、J A 静岡経済連が出品した「揉一ひとえ（プレミアム）」が全体の 1 位となる最高金賞を受賞した。

2 金賞茶品評会の概要

主催者	全米茶協会、カナダ茶協会
開催目的	アメリカにおける茶の消費拡大と認知度向上
開始年	2012年（平成24年）
出品茶	世界中の茶生産者や茶商が出品可能、茶種（緑茶、紅茶等）は問わない
審査方法	・生産方法やグレードに関わりなく、同じ産地（国）から出品されたお茶について金賞に値するか審査する。 ・審査項目は、乾燥茶葉の外観と品質、茶殻の状態（明るさ、均一性、香り）、抽出した茶の評価（香り、味、バランスなど）。 ・審査は、茶協会会員の中から選出された3～5人の専門家が行う。
受賞点数	産地（国）ごとに1位と2位を金賞とし、この中から最高金賞1点を選定。
結果発表	茶協会のホームページに審査結果が掲載される（平成28年10月公表見込み）

3 第 5 回金賞茶品評会の出品産地（国）と出品点数

区分	出品産地（国）	出品点数
アジア（6カ国）	日本、中国、インド、スリランカ、台湾、ベトナム	計72点 （10カ国）
その他（4カ国）	ケニア、ルワンダ、アルゼンチン、マラウイ	

※産地（国）ごとの出品点数は不明

4 表彰式の様子、証書



世界お茶まつり秋の祭典レセプション



最高金賞の証書

平成 28 年度 O-CHA パイオニア賞

(公益財団法人世界緑茶協会)

1 概 要

茶に係る優れた学術研究や、緑茶の振興に寄与した産業技術、緑茶のある豊かな生活文化の提案等の優れた成果を顕彰する「平成 28 年度 O-CHA パイオニア賞顕彰」の審査会を開催し、受賞者及び団体を決定した。表彰式は 10 月の世界お茶まつり 2016 交流会内にて執り行われた。

2 受賞者・団体一覧

受賞部門	受賞者(敬称略)・団体	受賞タイトル
学術研究大賞 	山田 浩 (静岡県立大学薬学部教授 /健康支援センター長)	緑茶成分の機能性に関する臨床的エビデンスの確立を目指した研究
概要：人での緑茶成分効能を実証する臨床研究を進めている。精度の高い研究を組み安全性倫理性・信頼性を担保した研究を実施。		
文化・芸術大賞 	橋本 素子 (京都造形芸術大学 通信制大学院非常勤講師)	「日本喫茶文化史」の 学術研究
概要：茶の生産・流通・消費・文化のすべてを対象とした「日本喫茶文化史」分野を提唱。渡来の喫茶文化が、日本で一般化する過程を明らかにしている。		
新技術・新商品開発大賞 	株式会社 そふと研究室 (代表取締役 坂野 真帆)	お茶の魅力、人、こだわりに触れるツアーの商品化
概要：地域密着の理念のもと、生産者や茶師、茶商など現地で活躍する人材を発掘し、彼らを主体とした事業を展開。		
CHALLENGE 賞 	Brekell Per Oscar (日本茶インストラクター)	日本茶の魅力を国内外に発信するスウェーデン人
概要：日本茶への思いから来日し日本茶インストラクターを取得。講演等でも活躍。日本茶の良さを伝える姿勢は、日本人より強く感じられる。		
CHALLENGE 賞 	全国「玉露のうまい淹れ方」 コンテスト大会実行委員会 (会長/藏内 勇夫)	全国「玉露のうまい淹れ方」 コンテストを通じた喫茶文化の継承と玉露産地振興
概要：玉露の深い香りと味わいに感動し、人と語らうきっかけとすること。「急須で淹れること・喫茶文化の継承」を目的に平成 18 年度より毎年開催。全国からの参加も増加中。		

静岡県・浙江省 茶文化交流座談会の開催

(公益財団法人世界緑茶協会)

(要旨)

静岡県浙江省友好提携 35 周年記念事業の一環で、中国浙江省から国際茶文化交流代表団が来静した。これに併せ、県内の茶関連機関・大学関係者と茶文化交流促進のための意見交換会を開催した。

1 事業の概要

日 時	平成 29 年 4 月 6 日 (木) 14:00~17:00
場 所	静岡産業大学 (藤枝市駿河台)
参 加 者	(1) 静岡県 (15 人) 静岡産業大学、静岡県立大学、静岡県日中友好協議会、 静岡県茶業会議所、茶学の会、県お茶振興課、世界緑茶協会 (2) 浙江省 (15 人) 浙江省国際茶文化交流代表団 (中国農業科学院茶葉研究所、 杭州茶葉研究院、中国茶葉博物館、浙江大学、浙江省樹人大学、 中国国際茶文化研究会、浙江旅游職業学院)
座 談 会 テ ー マ	茶の文化と産業振興 ～茶文化と茶業のかかわり～
座 長	堀川知廣 静岡産業大学情報学部長
内 容	・「ふじのくに茶の都づくり」における茶文化と産業 ・中国浙江省における茶文化の役割

2 座談会における主な意見

- ・近年、中国はあらゆる面で急速に発展しており、茶産業も例外ではない。
- ・中国の茶産業においては、様々な特徴のあるお茶や地域公共ブランドも開発されており、さらにお茶観光も活発となってきている。
- ・中国では、お茶は国の飲料であり、お茶と人とのかかわりを広くとらえて「茶文化」と呼んでおり、茶文化が茶産業を牽引している。

3 開催の様子



座談会の様子



中国農業科学院茶葉研究所
副所長の発表



浙江旅游職業学院茶文化専攻
学生による茶芸披露